

令和4年度（2022年度）

石見さくら会居宅介護支援事業所拠点事業報告

I. 事業総括

要介護状態又は要支援状態にある高齢者自らの意思を尊重し、その有する能力を最大限に活かし、住み慣れたご自宅で可能な限り自立した質の高い生活を営むことができるよう支援致しました。

状態の悪化を予防できるよう医療・福祉の関係機関と連携し、公平・中立の立場で地域に根ざした総合的な支援致しました。

II. 事業目標に対する評価

1. 利用者サービスの充実

KG I	指標の名称	指標値	3月末実績
(最重要目標指標)	サービス利用期間 (在宅生活期間)	3年	2年7ヶ月

利用者一人ひとりの利用登録から各月末日（或いは終了）までの在宅生活期間の算出を行い、登録者全員の平均期間（在宅生活期間の平均）は令和3年4月末に於いて4年9ヶ月、令和4年4月末に於いて2年11ヶ月と徐々に短くなってきています。長年利用してこられた方が施設入所をされたり永眠されることで終了となったり、新規利用者が増えることにより徐々に平均利用期間が短くなり3月末の時点に於けるご利用者の登録期間の平均は2年7ヶ月となりました。

2. 地域社会との関係性強化

KG I	指標の名称	指標値	実績
(最重要目標指標)	地域ケア会議出席率	100%	100%

地域ケア会議に於いて医療機関・地域包括支援センター・社会福祉協議会・ケアマネ・サービス提供事業所其々が、専門職の立場から情報を提供し合い、利用者個々の課題から地域課題を見つけ解決に向けて検討が行われました。8050 問題や家族関係を修復する必要性があるケース等、他の専門職と共に更に検討していく必要があると考えております。

3. 生産性の向上

	指標の名称	指標値	実績
K G I (最重要目標指標)	人時生産性	1.89	2.22
	労働生産性	3,594	4,321

2名体制で運営を行いました。利用者増に伴い、人時生産性及び労働生産性の目標値を達成することができました。

Ⅲ. 計画事業の総括

1. サービスの取組み

- ① 要介護状態又は要支援状態にある高齢者が、可能な限りご自宅に於いて、その有する能力に応じ、自立した日常生活を営むことができるよう配慮し、支援を行いました。
- ② 要介護状態又は要支援状態にある高齢者の選択により、心身の状況、その置かれている環境等に応じ、適切な保健医療サービス及び福祉サービス、施設サービス等、多様な事業所との連携により、総合的かつ効果的に介護計画が提供できるよう配慮を行いました。
- ③ 要介護状態又は要支援状態にある高齢者の意思及び人格を尊重し、常に利用者の立場に立ち、利用者に提供されるサービス等が特定の種類又は、特定のサービス事業者に偏することがないよう公平、中立の立場を保ちました。
- ④ 要介護状態又は要支援状態にある高齢者の要介護認定等に関する申請に対し、本人等の意思を踏まえ必要な支援及び協力を行いました。
- ⑤ 保険者から介護認定調査の委託を受けた場合、公平な調査を行うと共に所要の知識を深める為に、常に研鑽に努めました。

2. 人材育成への取組み

昨年に続き、新型コロナウイルス感染症予防の観点からオンラインでの参加や邑智郡内で行われた研修のみ参加しました。事例検討等を行う集合研修に参加することにより「別な視点に立つことによる気づき」があり、それはケアマネとしての資質を向上させると改めて感じました。

3. 地域との関係強化への取組み

地域ケア会議等に参加し、利用者個々のケースを通して医療機関や地域包括支援センターと共に地域の課題の解決策について検討を行いました。

4. 生産性向上への取組み

訪問の順番やルートを考え、効率よくモニタリング訪問を行い、利用者様一人ひとりが、ご自宅での生活がその方らしく継続して行えるよう取組みました。

5. 施設整備への取組み

香梅苑で使用し、リース終了となった印刷複合機（コピー機）を払い下げて貰い使用してきましたが、10月にトナーを送り出す部品が経年劣化により破損し印刷が行えなくなった為、リース契約の下、印刷複合機の入替を行いました。

令和4年度に実施した個別の事業の詳細及び成果等は以下の通りです。

【サービス事業】

1. 利用者（入所者）状況

(1) 利用率・稼働率

(単位：人)

	定員数	年間延べ人数		利用率
		計画数	請求実績	
介護予防	360	342	328	95.9%
要介護	612	537	582	108.4%
計	972	879	910	103.9%

※利用率＝請求実績÷計画数 稼働率＝請求実績÷定員数

今年度における施設入所等による終了者は23件でしたが、新規登録者は34件でした。登録者が増えたことにより年度末には介護保険請求の実績が76件と1ヶ月あたりの計画数を上回りました。

(2) 利用者構成状況

(単位：人)

介護度別	計画数		請求実績		年度末構成割合	
	延べ	年度末	延べ	年度末	計画	実績
要支援・総合事業	342	30	328	25	38%	32.9%
要介護1・2	372	34	400	37	44%	48.7%
要介護3～5	165	14	182	14	18%	18.4%
計	879	78	910	76	100%	100%

計画では四半期毎に到達件数を定め、業務に取り組み、要介護状態の方については、目標値を達成することができました。更なる医療機関や地域包括支援センターとの連携や民生委員との情報共有が必要と考えています。

2, 実施サービス

(1) 介護保険関係サービス

実施事業の成果、評価	K P I	実績
<p>《質の高いケアマネジメントの実施》</p> <p>ご自宅で、その方の心身の状況に応じて自立した生活が継続できるよう要介護等が悪化しないよう支援を行いました。</p> <p>ご利用者及びご家族様からのご希望に基づき心身の状態の維持・向上を図ることができるようP D C Aのサイクルの下、支援を行いました。</p> <p>年間の要介護認定更新70件中、維持或いは改善のあった方は54件ありました。中には、要介護状態が2段階改善された方や、要介護状態から非該当となり総合事業対象者の状態に改善された方もおられました。</p>	<p>更新時に於ける維持及び改善率</p> <p>70%</p>	<p>更新時に於ける維持及び改善率</p> <p>77.1%</p> <p>達成率</p> <p>110.1%</p>
<p>《健康状態の安定》</p> <p>サービス提供事業所と連携し、健康状態が維持できるよう支援を行いました。</p> <p>骨折による入院がある中、既往症の悪化や合併症による入院が多くありました。転ばない環境づくりと共に普段からの健康状態の把握と早期の対応が必要と改めて感じました。</p>	<p>登録者数に対する入院者数</p> <p>4%</p>	<p>登録者数に対する入院者数</p> <p>1.7%</p> <p>達成率</p> <p>102.3%</p>
<p>《医療機関等との情報連携》</p> <p>定期受診等に付き添い利用者の情報を医療機関と共有することは時折ありましたが、居宅サービス計画(ケアプラン)作成或いは更新に置いて、利用者が医師の診察を受ける際に同席し、医師等に利用者の心身の状況や生活環境等の必要な情報提供を行うと共に医師等から利用者に関する必要な情報提供を受けた上で、ケアプランに反映させた上で算定に至るケースはありませんでした。</p> <p>通院時情報連携加算 算定なし</p>		

<p>入院時から退院に備えて必要な準備を整え、退院前に於いては退院後のご自宅での生活不安を解消したりするために医療機関と情報交換など連携し、サービス調整を行い自宅での生活に対する不安を軽減できるよう支援を行いました。</p> <p>入院時情報連携加算 算定 27 件 退院・退所時情報連携加算 算定 30 件</p>		
--	--	--

(2) 介護保険外サービス

実施事業の成果、評価	K P I	実績
<p>各地域で認知症予防・啓発の取り組みとしてオレンジカフェを開催しました。今年度は、新型コロナウイルス感染者の増加により、6回開催が中止となりました。(桃源の家開催支援)</p> <p>参加者延べ数 65 人</p>		

3. 人員体制の状況 (常勤換算)

(単位:人)

役職名	計画		実績		差異	
	正職	非正職	正職	非正職	正職	非正職
所長 (管理者)	1.0		1.0			
介護支援専門員	1.0		1.0			
計	2.0		2.0			

予定通り 2 名体制で運営を行いました。

【人財育成事業】

(1) 事業所内研修

実施した研修	対象者	参加者数	実施した内容・成果等
権利擁護研修（桃源の家）	職員	2名	権利擁護について復習する機会となりました。
ハラスメント研修	職員	2名	Webでの参加でしたが、ミニワークが行えたことでハラスメントについて学びを深めることができました。

(2) 事業所外研修（外部派遣研修）

実施した研修	対象者	参加者数	実施した内容・成果等
高齢者住まい看取り研修（Zoom）	職員	2名	在宅での看取りについて学びを深めました。
認定調査員現任研修（Zoom）	職員	2名	認定調査員として必要な知識について学びを深めました。
認知症研修（Zoom）	職員	1名	疾患としての認知症について学びを深めました。
アドバンス・ケア・プランニング（ACP）について（田所公民館）	職員	2名	将来の変化に備え、本人が望む医療及びケアについて、本人の意思決定を支援するプロセスについて学びを深めました。
ケアマネジメント研修（田所公民館）	職員	2名	介護保険法の法改正について説明を受け今後の対応について学びました。

【地域との関係強化への取組み】

実施した事業	事業内容・成果等	KPI	KPI 実績
地域ケア会議	地域ケア会議等への出席を通じて関係機関等との更なる連携の強化を図りました。	出席率 100%	出席率 100%

【生産性向上への取組み】

(1) 事業規模拡大への取組み

介護支援専門員常勤換算一人当たりの受け持ち上限件数を 39 件としました。

(2) 稼働率向上への取組み

家族等の協力を得ながら、体調管理や転倒予防を行い、状態の変化が見受けられた場合、早めに受診を行うよう促すことで入院の長期化及び介護状態等の悪化を防ぎ、在宅生活の維持を図りました。

(3) 新規加算取得への取組み

取得計画	取得実績	実績評価
入院時連携加算	27 件	入院日を含め 3 日以内に病院に対して入院された方の情報の提供を行うよう努めました。
退院・退所時連携加算	30 件	入院して居られる利用者に関し、入院中の医療機関に 1 回以上、状態の確認等を行いました。
初回加算 介護予防 要介護	12 件 28 件	初めて要介護認定及び介護予防事業の認定を受けられた方或いは要介護度が 2 段階以上変更となった方についてアセスメントを行い、プラン立案を行いました。
通院時情報連携加算	なし	利用者様の受診時に付き添い、医師に対し情報提供を行い、療養上のアドバイスは頂く事はありませんでしたが、介護計画への反映には至っておりません。
介護予防連携加算	12 件	地域包括支援センターからの委託を受け介護予防事業の対象者となられた方についてアセスメント等を行いました。
特定事業所加算	未算定	加算要件を満たす職員体制とならず算定を行うことができませんでした。

【施設整備事業】

実施した施設整備等	実施した内容等
印刷複合機 (カラーコピー機)	これまで使用してきた複合機が故障し、部品が廃番と なっていることから修理が行えない為、更新を行いました。 <ul style="list-style-type: none">両面コピーなどの読み込みが早くなりました。スマホで撮影した写真を Wi-Fi 環境でスマホから 送り出し、印刷できるようになりました

【積立の状況】

(単位：千円)

積立目的	計画	実績
その他	300	0

収支が整わず積み立てを行うことができませんでした。事業運営を行う上で必要となる経費を補うためには、更に利用者の確保を行うことが必要と考えます。その上で、適切なケアプランを提案することにより、ご自宅でその方らしい生活が継続して行えるよう支援することが必要と考えています。又、加算等の取得を適切に行うことで増収を図ると共に業務の効率化による労働時間の短縮が必要と考えています。

【感染症・災害への対応への取組み】

- ① 令和 2 年度に策定した事業継続計画 (BCP) について帳票類を含めた見直しを 4 月に行いました。10 月には、邑南町によって新たに作成された各地区の防災マップを頂き、利用者宅付近で災害が発生しそうな場所及び避難場所の確認を行いました。
- ② 研修及び訓練については、法人内他事業所と共に行う予定にしていたが、コロナ禍において実施できませんでした。

IV. 苦情解決 (要望含む) の結果について

令和 4 年度において、特に苦情等はお聞きしておりません。

以 上

令和4年度（2022年度）

ファミリー・サポート・センター拠点事業報告

《石見さくら会さくらんぼクラブ》

I. 事業総括

ファミリー・サポート・センター「石見さくら会さくらんぼクラブ」は、子育て支援センターを拠点とし、子育て支援団体・各機関と連携を図り、地域の子育て家庭が安心して子育てできるように支援に努めました。

II. 事業目標に対する評価

KGI(最重要目標指標)	指標の名称	指標値	実績
	お願い会員の増員	50%増 (30-20)/20	△5.0%減 (21-20)/20

お願い会員 20 名に対して 30 名を目標に募集活動を実施しました。新たな入会として、お願い会員が 1 名入会し、会員数が 21 名となりました。計画の会員数には至りませんでした。少しずつでも計画に近づけるよう、今後も会員募集活動を継続してまいります。

III. 計画事業の総括

1. サービス事業への取組み

地域の子育て家庭を対象に、さくらんぼクラブ事業の周知による会員組織の拡大を図り、子育て負担の軽減に努めました。

まかせて会員とお願い会員相互が、ファミリーサポート事業に参加して、子育て家庭が安心して子育てや仕事ができるネット作りの推進に努めました。

2. 人財育成への取組み

行政と連携して研修会を開催し、会員の専門的な知識の向上を図りました。県主催のアドバイザー専門研修会は、リモートで参加し仕組みや現況についての新たな情報収集に努めました。

3. 地域との関係強化への取組み

まかせて会員・お願い会員とその子どもが一堂に会して交流する機会を設けました。新型コロナウイルス感染拡大防止の為、年 1 回（3 月）の開催となりましたが、わらべうた遊びを通して楽しい交流や意見交換会により、会員同士の親睦や交流を

を深めることができました。

令和4年度に実施した個別の事業の詳細及び成果等は以下の通りです。

【サービス事業】

1. 会員登録状況

会員	計画数	実績	差異
お願い会員	30名	21名	-9
まかせて会員	15名	15名	±0

2. 実施サービス

(1) サービス事業

計画上の事業	実施事業の成果、評価	KPI	KPI 実績
事業の周知及び 会員募集	<p>・年度初めに各保育所の保護者総会に於いて、事業説明と会員募集のチラシ配布をいたしました。また、児童クラブ・小学校・在宅親子・子育てサークルや専門機関と連携して、さくらんぼクラブの活動について説明させていただき、チラシ配布の依頼を行いました。会員募集に努めましたが、入会に至りませんでした。</p> <p>・子育て支援センターのすくすく便りや石見さくら会の広報誌に、活動内容の掲載をして事業の周知を図りました。</p>	チラシ配布数 1,000枚	チラシ配布数 600枚
信頼関係の強化	<p>・会員の交流会を2回予定しており、1回目を11月に計画しましたが、邑南町での新型コロナ感染が拡大したため、3月に延期となり、1回のみの実施となりました。交流会では、まかせて会員とお願い会員6名の参加があり、わらべうた遊びを通して楽しい交流会となり、リラックスして思いを伝え合いながら信頼関係も深まりました。</p>		

人材育成	<ul style="list-style-type: none"> ・ 邑南町が主催するファミリーサポート講習会に職員とまかせて会員3名が参加しました。乳幼児の発達について専門知識を学び、知識の向上を図りました。またその後、福祉課と、まかせて会員さんの仕組みや役割について、自分達の立ち位置を確認することができました。 		
------	---	--	--

3. 人員体制の状況

アドバイザーは子育て支援センター職員が兼務しております。

【人財育成事業】

事業所外研修

実施した研修	対象者	参加者数	実施した内容・成果等
アドバイザー専門研修（県主催）	保育士	1名	(リモート研修) ・アドバイザー研修は、サポートセンターの現状や役割について学ぶことができました。県内のサポートセンターの情報収集もできました。
会員専門研修（町主催）	保育士	1名	・3名の参加があり、子どもの発達について学び専門知識を身につけました。

以上